

2018年4月入職

いのくまりの
猪熊莉乃



患者さまの誠実な伴走者として、サポートし続けたい

私が考える「誠実さ」

私はあまり話が上手なタイプではありません。良くも悪くも生真面目で、冗談が通じないようなところもあるのですが、その代わりに「誠実さ」ではほかの人に負けたくないと思っています。私が思う「誠実さ」とは、自分の価値観を押し付けるのではなく、相手の価値観で物事を考えるよう努め、向き合うということです。業務においては、自分の思う看護を押し付けるのではなく、患者さまご自身にとって何が良いのかを考えた上で行動することを心がけています。

透析室において看護師の役割は、マラソンの伴走者のようなものだと考えています。走っているのはあくまでも患者さまです。患者さまご自身が主体的に治療に取り組めることが、より良い治療への第一歩だと思います。特に透析治療は、長くつらい治療です。つらい時もうれしい時も、その伴走者として患者さまの気持ちに寄り添い、これからもサポートしていきたいと思っています。

とはいえ、伴走者として認めていただくためには、何より患者さまに心を開いてもらうことが不可欠です。そのために、私は挨拶や会話の際には意識してなにか一言を加えるようにしています。例えば「今日のお洋服とてもお似合いですよ」というように、相手の治療以外の部分にも触れることで、「私はあなたのことを単なる医療対象者としてではなく、ひとりの大切な人としてちゃんと見ていますよ」というメッセージを伝えられればと思っています。最初は難しかったのですが、毎日心がけて続けてきたので、今は自然にできるようになりました。

チーム医療の大切さ



思いやりエキスパートの候補に選ばれたときは、初めは「たいしてキャリアが長くない私がなぜ？」と感じたのですが、患者さまに対して誠実に向き合う姿勢が認められたのかもしれない、と思い、後から嬉しさが込み上げ、モチベーションがアップしてきました。研修を通して一番変わったのは、スタッフ間で協力し合うことの重要性を認識できたことです。以前は自分自身のスキルアップにしか目を向けておらず、チームへの意識は強くありませんでした。

研修を終えた今、患者さまの満足度を高めるためにはチーム医療が大切なのだと改めて実感しています。

患者さまが安心して通院してくださるよう、思いやり行動の推進者として、患者さまはもちろん、スタッフに対しても丁寧で誠実な対応を心がけていくことで、クリニックのすべてのスタッフが笑顔のコミュニケーションを取れるよう、そして協力し合えるチームを作り上げていけたらと考えています。



誠実な対応と

笑顔のコミュニケーションで

お客さまに信頼される

看護師を目指します

猪熊莉乃